

科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
世界史探究	3	A C D F	4	必修選択	140 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	
教科書	詳説世界史(山川出版)
使用教材等	最新世界史図説 タペストリー(帝国書院)、新世界史要点ノート(応用編)【新課程版】(啓隆社)、大学受験必携 世界史用語集 IDでらくらく検索(東京書籍)、世界史重要語句 Check List 【新課程版】(啓隆社)、つながる 世界史重要語句 Check List ノート【新課程版】(啓隆社)

科目の目標

学習目標	【知識及び技能】 世界の歴史の諸事象について、地理的条件や時期・推移などと関連付けながら理解する。諸資料を読み解き、諸資料を基に世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 歴史的な見方・考え方を働かせて、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象を多角的・多面的に考察し、知識を概念化して学びを深める。基礎基本の知識や考察したことを、効果的に説明する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 問いを中心に学びを深め、地球世界の課題とその展望を探究する力を養う。
------	---

年間授業計画

学期	単元・単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準
1	(現代史) 帝国主義～第二次世界大戦までさらに戦後史も概略の説明を行う。 (古代史) 2学年の授業の進度に鑑み、内容は発展的な内容を加えていく。具体的にオリент世界～中世史まで 【知】2学年の学習の基礎に基づき文明の成立と特質を、背景や類似・差異に着目して発展的に理解する。 【思】諸文明の特質をまとめ、表現する。 【知】アジアからヨーロッパまでの宗教と国家の成立と展開を、それぞれの地理的条件や特質を踏まえて理解する。 【思】諸資料を活用して、諸事象のつながりを考察する。 【知】ヨーロッパ、アジアの諸国家の動向や展開と、広範囲に及ぶようになる交流による影響や変容について理解する。 【思】時期や推移・地理的条件に着目して、社会的事象を相互に結び付ける。 【態】問いをたて、問いの答えを見つげようと自ら学習を進めたり、考察する。疑問を調べ、学習の記録をつけ、定期的に振り返る。	・(現代史) 2つの大戦の背景・特徴・影響を、現代との繋がりを踏まえて理解する。 ・(古代史) 原始から古代・中世と進み近代にいたる各文明の成り立ちと発展について2年時の学習の基礎の上に理解する。 具体的項目 ・文明の成立と古代文明の特質 ・中央ユーラシアと東アジア世界 ・南アジア世界と東南アジア世界の展開 ・西アジアと地中海周辺の国家形成 ・イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	基本的な歴史用語と出来事とを理解しており、歴史を大きく捉えることができる。要点ノートの提出など それぞれの文明の成立過程と特徴を理解しているかについて調査やノートの提出で評価する。 【知】文明の成立と特質を、背景や類似・差異に着目して理解している。 【思】諸文明の特質をまとめ、表現している。 【知】アジアからヨーロッパまでの宗教と国家の成立と展開を、それぞれの地理的条件や特質を踏まえて理解している。 【思】諸資料を活用して、諸事象のつながりを考察している。 【態】問いをたて、問いの答えを見つげようと自ら学習を進めたり、考察している。疑問を調べ、学習の記録をつけ、定期的に振り返っている。
2	(現代史) 第二次世界大戦後の世界についての学習と同時に大学入試問題演習を実施 (古代史) 近世史・近代史を取り扱う 【知】ヨーロッパ、アジアの諸国家の動向や展開と、広範囲に及ぶようになる交流による影響や変容について理解する。 【思】時期や推移・地理的条件に着目して、社会的事象を相互に結び付ける。 【知】帝国主義につながる背景や推移を理解する。 【思】ヨーロッパの海外に進出する背景を多面的・多角的に考察して、まとめる。 【態】問いをたて、問いの答えを見つげようと自ら学習を進め、考察する。疑問を調べ、学習の記録をつけ、定期的に振り返る。	・(現代史) 冷戦後の世界を理解する。 問題演習を通じた総合的学力の養成 ・(古代史) 具体的な項目 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 ・アジア諸地域の動揺 ・帝国主義とアジアの民族運動	1学期の続き 複雑な戦後史を国別、成立過程と特徴を理解できているか、調査やノートの提出、課題などにより評価 問題を理解し、解くことができる。知識を自ら補うことができる。 【知】ヨーロッパ、アジアの諸国家の動向や展開と、広範囲に及ぶようになる交流による影響や変容について理解している。 【思】時期や推移・地理的条件に着目して、社会的事象を相互に結び付けることができる。 【知】帝国主義につながる背景や推移を理解している。 【思】ヨーロッパの海外に進出する背景を多面的・多角的に考察して、まとめることができる。 【態】問いをたて、問いの答えを見つげようと自ら学習を進めたり、考察している。疑問を調べ、学習の記録をつけ、定期的に振り返っている。
3	大学入試を控え問題演習に取り組むと同時に以下の内容を学習する。 【知】国民国家の特徴と成立の背景を理解する。世界の各地域の交流や影響といった相互のつながりと変化を理解する。 【思】現代につながる社会的な諸課題の背景を多面的・多角的に考察し、まとめる。 【態】問いをたて、問いの答えを見つげようと自ら学習を進めたり、考察する。疑問を調べ、学習の記録をつけ、定期的に振り返る。	問題演習を通じた総合的学力の養成 学習範囲は、古代から現代までの多岐にわたる。	問題を理解し、解くことができる。知識を自ら補うことができる。 【知】国民国家の特徴と成立の背景を理解する。世界の各地域の交流や影響といった相互のつながりと変化を理解している。 【思】現代の社会的な諸課題の背景を多面的・多角的に考察し、まとめることができる。 【態】問いをたて、問いの答えを見つげようと自ら学習を進めたり、考察している。疑問を調べ、学習の記録をつけ、定期的に振り返っている。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。